

# ミクロ経済学Ⅰ

科目ナンバリング ECT-201  
選択必修 2単位

## 1. 授業の概要(ねらい)

市場における買い手の意思決定を扱う。市場では「価格」が媒体となって情報を伝えるため、一般のケースよりは問題が単純である。誤解をおそれずひとりで述べれば、入門ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱにおける最重要命題は「市場経済はある意味うまくできている」である。おそらく、どの入門ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱの授業でも、「ある意味」や「うまく」の意味は明示されていない。これらがはっきりしないうちはせっかくの命題も他の経済事象に適用できない。「厳密な議論のない入門ミクロの授業はだめだ」と主張しているわけではない。実際、初級者がいきなり厳密な議論をしても通常は「議論のさまたげ」でしかない。しかし中級レベルでは可能である。本科目では、入門ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱの授業では暗黙裡に仮定されていたうそやごまかしをなくして、できるだけ少ない前提下で市場における消費者の行動原理について学び上の命題を正確に理解する。

## 2. 授業の到達目標

- 市場理論を通して、ミクロ経済学の方法、考え方を身につける。
- ・与えられた好みに対応する無差別曲線を描ける。
  - ・与えられた所得に対応する予算制約線を描ける。
  - ・無差別曲線と予算制約線が与えられたときに、消費者の最適消費点を求められる。
  - ・所得の変化に応じた消費者の需要量の変化を計算できる。
  - ・価格の変化に応じた消費者の需要量の変化を計算できる。

## 3. 成績評価の方法および基準

毎回課す確認テストと宿題による(100パーセント)。

## 4. 教科書・参考文献

教科書

タイトルが『ミクロ経済学』とついでいければたいはいはOK。

## 5. 準備学習の内容

授業中に出题する確認テスト、宿題を解きなおしたり参考書の章末問題を考えたりしてそれまでの講義内容の理解を深めてほしい。復習、特に問題演習は重要である。ノートや参考書を読むだけで例題、問題は解かない、という勉強ではわかったことにならない。例題・問題は解き方を読むだけでなく、自分でペンをもってノートに解きなすべきである。問題を解けば自然にわかっていくことは多い。わかっていることとわからないことを明確に区別して、理解できていない解説を紙に何回でも再現せよ。

## 6. その他履修上の注意事項

継続的に学習せよ。10分でも構わないので毎日勉強する時間をとれ。停滞は後退である。  
丁寧なせよ。つまみ食いの勉強は基礎科目においては百害あって一利なしである。100パーセントわかるところからスタートして一步一步進むのがもっとも楽な方法である。あせりは禁物である。  
いくら勉強してもわからなければ躊躇せずに質問すべきである。質問する相手は教員でも友人でも誰でも構わない。困ったときに人に頼ることもれっきとした能力である。  
定義を大切にせよ。わからなくなるのは定義の理解が不十分だからである。定義とは、ある概念を過不足なく説明し約束することである。スポーツをやるのにルールを覚えるがごとく、推理小説を読むのに登場人物の名前を覚えるがごとく、ミクロ経済学を勉強するにあたってはミクロ経済学の専門用語の定義を覚えよ。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 限界支払用意と正味便益
- 【第3回】 効用
- 【第4回】 正味便益の計算
- 【第5回】 正味便益とお金の限界効用
- 【第6回】 特殊な好みの人の無差別曲線
- 【第7回】 一般的な無差別曲線
- 【第8回】 無差別曲線と好み
- 【第9回】 予算制約
- 【第10回】 さまざまな予算制約線
- 【第11回】 最適消費
- 【第12回】 所得の変化
- 【第13回】 価格の変化
- 【第14回】 需要曲線と需要の価格弾力性
- 【第15回】 医療保険政策への応用